



テーマ 「おはよう」の場へ

水代 優

good mornings 株式会社 代表取締役

余所者が感じたままを本気で説く

「おはよう」「ありがとう」

シンプルだけど、とても大切な挨拶を大きな声でできること。1年365日、気持ちのいい朝を迎えらえること。そんな企画運営をしたくて、会社の名前を good mornings にしました。

僕らが得意なのは、場をつくることです。場には、おいしい食事、心地よい空間、ワクワクする体験を詰め込むことができます。それを楽しむのは人。場があれば、人は集い、知り合い、語ることができる。それらすべての記憶の蓄積と共有が僕らの財産であり資産です。



good mornings がこれまでにしてきたことをいくつか紹介します。まずは拠点となっている丸の内から。

一流企業の本社が集中する丸の内は、言うまでもなく日本第一のビジネスタウンです。



その中に建つ新東京ビル 1階の『倶楽部 21号館』の運営を任されたとき、まず初めに疑問に思ったのは、この街で働く人々は会社以外で知り合いがいるのだろうか？ でした。社内でもなら飲み会もあるでしょうが、生涯に渡り社内コミュニケーションだけで本当に豊かなのだろうか？

そこで僕は、会員制の『倶楽部 21号館』を利用してくれる人々に、社外の友人を3人つくってあげようと考えました。構想の拠り所としたのは雑誌です。第一特集は食事。第二特集は健康。第三特集は趣味。特集の隙間には簡潔なコラムを入れたい。広告は企業から集める……。特集すべてに興味を持つ人は少ないかもしれないけれど、各特集をおもしろがってくれる人はいるはずだから、同じ雑誌を読む仲間として意気投合できる可能性を信



じました。要するに、場所をメディアに仕立てたのです。それは僕らの戦術になりました。



同じ丸の内では『marunouchi cafe seek』も担当しました。この街には公園がないので、カフェを公園に見立て、人が気軽に集まれるよう年 100 本以上のワークショップを実施しました。内容は、食、伝統芸能、英会話等々バラエティに富んでいます。



丸の内の近所でもある神田淡路町の『ワテラス』。これは、江戸の風情を残す町に、オフィス、商業施設、住居を融合させた建物をつくるという大きな構想でした。しかし僕らの戦術は同じ

です。町そのものが生まれ変わるわけですから、古くから住む人と新しく住む人が共に楽しめる場をつくる。そこで様々なワークショップを企画し、これまでになかったコミュニティを築く。神田は本の町ですから、著者を招いて読書会を催すなど、地に根付いたワークショップも取り入れています。



予期せぬグッドデザイン賞を受賞した千葉県館山の『SEADAYS』。海のそばに建つカフェのオシャレなデザインが注目されましたが、神田淡路町と同じように、僕らがつくり上げたのは地元の人と移住してきた人、または観光で訪れた人が自然に交流できるコミュニティ環境でした。地方にありがちなことですが、地元の住人は故郷を愛し損なっているのです。生まれ育った場所だからアラばかりに意識



が向いてしまうのでしょうか。そうではないですよ、だってこんなに素敵な山と海があるじゃないですか。余所者が感じたままを本気で説き、改めて地元の人々が故郷を見渡し、慣れ過ぎた場所の魅力を再発見する。そこから良質なコミュニティが生まれました。それがグッドデザイン賞の受賞理由です。



かつてない困難にぶつかり、だからこそ他では味わえない達成感を得られたのは、2011 年の津波で被災した宮城県名取市の『ゆりあげ港朝市』でした。復興のシンボルとして、大地震以前の名物朝市を再開させるプロジェクトでしたが、支援に手を上げた企業連合が解散したり、行政が計画から手を引いたり、あるいは仮設住宅での暮らしを余儀なくされた魚屋のおじさんたちとぶつかったり、何度も挫折しそうになりました。それでも現在、日曜日になれば被災以前に比べて 1.5 倍もの人が集まるようになったのは、もちろん地元の方々の折れない心があったからですが、僕ら

にしても足繁くゆりあげに通い、必死で地元溶け込んだ努力もいづらか足しになったと思っています。



厚生労働省との雇用創出プロジェクトで関わった**限界集落の岡山県新庄村**も、水が清らかでおいしい野菜が採れるものの販路に迷っていた**熊本県菊池市**の仕事も、やはり現場に赴くことで本当の課題が見つかるし、何より地元の人々の顔を見て働くことに大きな意義を感じます。



それら僕らが携わった案件で経験したものをすべてを注ぎ込んだのが、神奈川県三浦郡の**葉山一色海岸**で実施したビーチハウスです。前職 IDEE 時代の同僚との共同経営プロジェクトとして6年間続けました。いわゆる海の家ですから開設期間は短いのですが、東京から人を呼ぶための話題作りや、三代に渡る地元の人たちと交流を図るためのイベントやワークショップの開催、おいしい料理の提供等々、good mornings としての総力を葉山の夏に注ぎました。



僕らの才能は、どんなものにも楽しさを見いだせる力

こうして僕らの経緯を紹介すると、それは成功事例ともてはやされ、あるいはビジネスモデルと受け止められ、僕個人は場作りの達人と呼ばれたりして、幸いなことに方々からお声掛けをいただきます。



しかし、**実のところ僕は、確固たるビジネスモデルなんてものが存在するのか疑っている人間です。**もちろん僕らには経験があり、戦術があり、戦略も立てられる。けれど、ひとつとして同じ現場はありません。現場の状況が違えば、その度に戦術も戦略も改めなければならない。だから僕らが成し遂げた過去のプロジェクトを頼りに、ここでも同じことをやってくれと依頼されても、それはできませんと言うしかないのです。

かろうじてできるのは、同じようなこと。それでもやっぱり遠隔操作的な仕事はできません。まずは僕らがそれぞれの現場を心から好きになり、誰かに自慢できるような心

持ちにならなければ何も始められないのです。

それだけ僕らにとって**現場は大事な“場”**です。とは言え最近気づいたのは、多くの人はどうやら現場が好きではないらしいという事実です。僕といっしょに企画を立ち上げたいと申し出てくれる人がいる。ならばまずは少なくとも半年は皿洗いをやってねと話すと、たいがいは引かれてしまいます。僕と働きたいならそこからでしょうと思うのですが、どうにも理解されません。



これは人と話していて発見したのですが、僕にとって**現在の仕事の出発点は接客**でした。

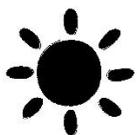


good mornings 以前に在籍していた **IDÉE** という家具ブランドで、イベントや新店舗開発に携わっていました。家具屋と言っても飲食やワークショップも行う、それまでにない形のスペース作りが僕の担当でした。

接客というのは、接客する側の人間がその日どんな状況でも、たとえば昨夜彼女とケンカして気分が落ち込んでいても、多少お腹の調子が悪くても、客をもてなすのが仕事です。店はリピーターを獲得しなければ成立しません。それゆえ初来店の客とは常に一発勝負です。その基本というか大原則を **IDÉE** 時代に身をもって学びました。

勝てば官軍と言いますが、**勝利は運任せ**だったりします。特に飲食店は天候に左右されがちですから、そこはもうお天道様にすがるしかありません。その一方、**負けパターンはおよそひとつ**です。現場のコミュニケーションが悪い。シェフとマネージャーが対立する。早番と遅番が揉める。店の経営はチーム戦ですから、現場の風通しが悪ければ早晩立ち行かなくなります。それが原因で人生が大きく変わった人たちを僕はたくさん見てきました。

そしてまた **good mornings** は、成功と評価していただける事例の裏で相当なエラーをやらかしてきました。それを引き起こす原因は、考える前に行動してしまうから。今となつては講演の依頼もあり、人の前に立って話をさせていただきますが、そこでプレゼンするのはすべて行動の後付け。僕ではない賢い人間が行動に意味を見出してくれているだけです。



そうして**行動ありきで物事に触れ続ける**中で、少しずつ地雷を踏まなくなった。それが真実です。今でも踏みそうになることは多々あります。だから勝っている気はしません。負けに引き分けに持ち込めるようになった、といったところでしょうか。これまで何度もかなりの勢いで倒れても再び立ち上がったのは、目標

を遠くに置いているからです。そうたやすく達成できるはずがない、自ら手間をかけているプロジェクトばかりですから、今日打ちのめされたくらいどうってことないだろうと、そんな風に関き直る癖がついたのでしょう。あるいは遠くに置く目標が、誰の目にもわかりやすい成功ではないのかもしれませんが。



「何がやりたいのですか?」。最近はそのような質問をよくされます。**good mornings** が近々**取り組むプロジェクト**に直営店があります。これまではクライアントの依頼による運営に特化してきましたが、自分たちが本気を出し

て店の経営に乗り出すというのはぜひやってみたい具体的な案件です。

それも含め、僕らを突き動かすのは楽しさです。浮かれているように聞こえるかもしれませんが、楽しいからこそ新しいアイデアは生まれ、楽しさ以外に継続のエネルギーになるものはないと思うのです。



good mornings が自信をつけた仕事のひとつに、会議室の管理があります。10年に渡りノークレーム。一度たりともダブルブッキングなし。それを成し遂げたからこそ、リスクな僕らに役所が発注



するのだという自負があります。非常に地味な作業です。けれど僕らはそれを真剣に楽しんだ。

もし good mornings に何らかの才能があるとしたら、どんなものにも楽しさを見いだせる力です。その楽しさ、「おはよう」「ありがとう」を笑顔で交わせる現場に満ち溢れています。僕らはそれをよく知っているのです。

T

執筆者紹介:

水代 優 プロフィール

インテリアショップ「IDÉE」にて、カフェの立ち上げやイベント企画等に携わる。

2012年、good mornings 株式会社を設立、代表取締役役に就任。主な事業は、クリエイティブな空間作りを通じて、まちの価値を高めること。食とデザインにこだわった「場作り」を通じて、地域コミュニティの拠点を生むこと。全国各地の企業や自治体のコンサルティング、商品開発なども手掛けている。



— 「おはよう」「ありがとう」挨拶は大きな声で、365日の気持ちのよい朝を作る —

毎日は、人と人の出会いの積み重ね。

毎日は、新たな発見に溢れています。

毎日は、楽しくて仕方ないはずです。

どんな人に出会い、どんな時間をともに過ごしてきたのか。

その記憶の蓄積と共有が、私たちの最も大切な財産だと信じています。

good mornings の仕事は、

東京・丸の内を拠点に、全国のまちに新たな出会いと発見をつくること。

おいしい食事に心地よい空間、そしてワクワクする体験。
生活を彩る様々なカルチャーが集まる東京ならではのネットワークと good mornings 独自のセンスで全国各地に楽しい“場”を提供します。

good mornings 株式会社（グッドモーニングス株式会社）

本社：東京都目黒区上目黒

営業内容：

1. 各種イベント、セミナー、ワークショップの企画運営
2. カフェ、レストランの企画運営
3. 店舗における立ち上げ/コンサルティング
4. ギャラリーにおける企画運営
5. グラフィック・デザイン、エディトリアルデザイン
6. 広告の企画制作およびアートディレクション
7. オリジナル商品の企画、制作、販売
8. 食料品の製造、販売、卸売り、開発

当財団では、第一線で活動される気鋭の執筆者に依頼し、時代を拓く提案、提言をニュースレターとして発信しています。ご意見をおよせください。

一般財団法人 未来を創る財団 abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

<http://www.theoutlook-foundation.org>

© 2015 The Outlook Foundation, All rights reserved.